

ALT (外国語指導助手) の増員をはかれ

町長 できるだけ早い段階で実現していきたい



菅原俊一 議員

ALTの増員を

問

英語教育の必修化や教科化に備え、ALTの増員をはかってもらいたい。

町長

児童生徒に対す役割は大きい。増員は他市町の動向を踏まえ、できるだけ早い段階で実現していきたい。

問

英語の教科化にもなう取り組みは。

教育長

文科省案を高める研修やALTの積極的活用の方針が示されるようだ。次期

学習指導要領が出てから適切に対応する。

青少年国際交流事業の拡充を

問

今年度の応募人数は。

町長

定員4人増の12人で募集したところ、中学生17人、高校生5人の応募があった。

問

子どもたちには生涯の宝となるような得難い経験。成果を精査したうえ継続と拡充を願う。

町長

生徒の関心も高く効果が大変大きい。派遣先や人数、時期や内容等も含め、

いじめの実態はあるか

問

全国的にいじめ問題が後を絶たない。白鷹町の子どもたちにいじめの実態はあるか。

教育長

昨年度の調査によると、小中学校で合計7件のいじめが認知されているが、いずれも解消している。今年度は1件あったが解消している。

問

いじめの相談窓口は設置されているか。また、生徒への周知は。

教育長

各学校で教職員全員が相談を受ける体制をとっている。町教育委員会にも窓口がある。長井警察署、県教育センターなどに電話相談

より良いものとするための見直しを行い、継続実施を前提として取り組んでいきたい。



生きた英語を学びたい

が設置されている。周知に関しては年度当初にチラシが配布されている。

熱中症対策の現状は

問

スポ少や部活動での熱中症対策は。感覚だけの判断ではなく「暑さ指数計」の活用を。

教育長

学校は水筒持参による水分補給、屋外での帽子着用など事故防止に努めている。スポ少指導者には熱中症対策についての研修を行っている。指数計は各学校で活用している。